

眼科医

西嶋一晃（にしじまかずあき）

人が外界を感知する機能に五感があります。視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚です。われわれは外の世界からの80%以上の情報を視覚から得ていると言われています。それゆえ何らかの視覚障害が起こった場合の生活の質の低下は計り知れないものです。

また一概に視覚障害といっても周辺視野の障害、中心視野の障害等さまざまな形の視覚障害があります。その表れ方は病気によって異なります。例えば白内障の場合には視野全体が霞むようになり、遠くの看板や文字がはっきりとしなくなります。また緑内障や網膜色素変性などでは中心部分は見えても周辺視野が見えなくなります。さらに加齢黄斑変性や黄斑円孔などでは周辺視野は正常ですが中心部分の視覚がおかされます。このように視覚障害を持った方がいらっしゃるっても同じような質の障害とは限りません。

それゆえ周囲にいらっしゃる健常者の方が手を差し伸べる場合、適切な補助ができるためにはある程度病気に関するの情報を知っておく必要があります。これにはわれわれ眼科医が日本眼科学会や日本眼科医会を通じてもっと情報発信をしていく必要性が高いと思います。これまでも各都道府県の眼科医会が中心になって目の愛護デーの催しを10月に行ったり、テレビのコマーシャルなどで日本人に多い緑内障や加齢黄斑変性の啓発を行って来たりしています。われわれ全員が主な目の病気について情報を手に入れ慣れ親しむことによって、視覚障害を持っていらっしゃる方に適切にタイミングよく手を差し伸べるようになるのではないかと思います。